

平成 28 (2016) 年度
部局 F D 活動報告

①都市教養学部 人文・社会系／人文科学研究科

活動状況	学生による授業アンケート等	各教室によって学問的な性質やアプローチの方法などが異なるため、現在、学系/研究科共通の取り組みとして、学生による授業評価アンケートは実施していない。統一したアンケートをとっても、異なる教室で比較参照することが困難で、さほど効果的ではないためである(独自にFDアンケートを実施している教室もある)。その代わりに、各教室ごとに、学生からフィードバックを受ける仕組みを設けていたり、少人数体制を活かし、教員と学生の密接な対話を通じて、授業の質や教育の方法に関する意見交換を行うなど、授業改善に取り組んでいる。
	研究会・講演会・セミナー等	全学で実施するFDセミナーや講演会に銘々で参加し、授業改善に向けた理解を深めた。学系・研究科単位での研究会は開催されなかったため今後の課題としたい。
	委員会・会議等	12月15日教授会後に部局でFD委員会を開き、授業改善のための意見を聞いた。
	その他	昨年度に続き「授業の工夫」パンフレットを作成した。各教室のFD委員を通じ、専門教育科目における授業の進め方、特に授業外学習時間を増やすための方法等について原稿を依頼した。
今後の予定・展望	部局独自の取り組みとしてパンフレット作成を継続していることには意味がある。パンフレット作成をきっかけに、教室間の情報交換の機会を増やし、他教室の取り組みのよいところをお互い学べるようにしていきたい。	

②都市教養学部 法学系／社会科学研究科 法学政治学専攻

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>【学部】 法学系においては、通年開講の専門教育科目（14科目）を対象として、学生による授業評価アンケートを実施した。年度末までに集計結果をまとめ、各担当教員にフィードバックし、来年度以降の教育活動の改善に役立てている。 (継続的に実施中)</p> <p>【研究科】 法学政治学専攻においては、少人数のため授業評価アンケートはなじまず、実施していない。</p>
	研究会・講演会・ セミナー等	<p>【学部】 スタッフミーティングの機会を活用し、本学で発行されているFDレポートなどを教材に、FDの手法について検討を重ねている。特に法律学・政治学ではそのままでは活用しにくい手法が多いため、これをどのように消化し、取り込んでいくかに主眼を置いた検討を行っている。</p> <p>【研究科】 ＜政治学分野＞ ①毎月、教員・院生全員が参加する「政治学総合演習」を開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ②毎月、政治学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。 ③政治学分野に所属する全教員・院生で構成される「政治学FD会議」を開催している。政治学FD会議は、学期初の回（4月・10月）では、教員が当期の講義・演習の概要・趣旨等を説明し、意見交換を行う。これを踏まえ、学期末の回（9月・3月）では、学期初に掲げた授業目標の達成度等に関する情報交換を行うと共に、講義・演習に参加した院生との意見交換を行い、授業内容の改善に努めることとしている。</p> <p>＜法律学分野＞ ①教員・院生全員が参加する「法律学総合演習」を定期的に開催し、研究・教育水準の向上を図っている。 ②毎月、法律学分野の教員による「スタッフミーティング」を開催し、大学院の教育及び研究指導等に関する意見交換を行っている。</p>
	委員会・会議等	「法学系FD委員会」及び「大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会」（合同開催。大学院（社会科学研究科法学政治学専攻）主任、FD委員、教務委員、基礎教育部会委員で構成）を組織している。
	その他	
今後の予定・展望	<p>【学部】 ・実施した授業評価アンケートの結果を、個々の教員のレベルにおいて、自らが担当する授業や教育環境の改善に反映させていくことを再確認した。 ・法学系のFD活動のあり方に関する法学系FD委員会における議論をより活発化させるために、法律学・政治学各コースでのスタッフミーティングを活用している。 ・引き続き、各専門領域の教員間で、カリキュラムや講義のあり方について検討する機会を定期的に設け、法学系全体の教育効果の改善・充実につなげていきたい。</p> <p>【研究科】 2007年度から大学院FDの実施が求められていることを踏まえ、法律学・政治学総合演習等を中心とした自己点検・評価及びFD活動の更なる充実に向けた検討を、大学院社会科学研究科法学政治学専攻FD委員会を中心に行っている。定員充足率の向上と共に、外国人(主に中国)留学生が増えてきているので、これらの学生に向けたFDの在り方を検討している。</p>	

③社会科学部 法曹養成専攻

活動状況	学生による 授業アンケート等	法科大学院の教育等の改善及び充実のためのアンケート調査を、学期ごとにすべての法科大学院生を対象に実施している。このアンケート調査において、すべての授業科目について学生による授業評価を行うとともに、あわせて授業内容や方法、学習支援体制（オフィスアワーなど）、施設や設備等に対する要望等を尋ねている。授業評価のほか、授業に関する要望について当該科目の担当教員にフィードバックし、教育活動等の改善に役立っている。このアンケートで挙げられた要望等をFD会議で検討し、学習環境の改善に役立っている。
	研究会・講演会・ セミナー等	各種の団体が実施するセミナー等への参加 法科大学院教育、司法試験、第三者評価等に関して、法科大学院協会、大学改革支援・学位授与機構、日弁連等の各種団体が実施する検討会やセミナー等に参加している。
	委員会・会議等	FD会議等の実施 毎月1回、授業を担当する教員から構成されるFD会議を開催し、学生の学習状況や授業方法等についての情報の共有化を図るとともに、法科大学院における教育等についての意見交換を行っている。さらに、専門領域ごとにFDに関するミーティングを適宜開催している。
	その他	2004年度は、法科大学院設置申請に際して、文部科学省による教員審査を受けている。また、2004年11月、2005年7月に文部科学省による法科大学院設置年次計画履行状況実地調査を受け、2006年11月に、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況面接調査を受けた。さらに、2008年度、2013年度には、法定化されている大学評価・学位授与機構による法科大学院認証評価（第三者評価）を受けた。なお、2007年度以降、法科大学院の各年度における自己点検・評価結果については、外部委員による評価を行い、年度ごとの自己評価書を公表している。
今後の予定・展望	2013年度の法科大学院認証評価の結果を踏まえ、法科大学院における教育・研究の質の向上を実現すべく、上記のような取り組みを継続する。 しかし、継続的に上記のような取り組みを実施し、法科大学院をより良いものとするために人的体制を整備する必要があることは、文部科学省による法科大学院設置計画履修状況の面接委員、法科大学院認証評価結果等において指摘されているところである。したがって、今後も、優秀な教員を採用するための人事枠・制度の拡充、正規雇用職員の増員を中心とする事務体制の整備、これらを可能にする予算措置を至急講じなければ、適正な法科大学院の運営はきわめて困難である。今後も法科大学院認証評価（第三者評価）を受ける上で、管理課長が週に一度（5時間程）しかいない現在の事務体制の強化が必須である。 また、現在法科大学院卒業後のキャリアを見据えた在校生向けのセミナーの学内実施を企画している（2017年度実施予定）。	

④都市教養学部 経営学系／社会科学部 経営学専攻

活動状況	学生による授業アンケート等	<p>前期・後期それぞれにおいて以下の概要で授業アンケートを実施した。</p> <p>【学部】前期は2016年6月8日(水)から28日(火)に前期開講の新規・再開11科目、後期は2016年11月7日(月)から25日(金)に後期開講の48科目を対象とした。回答はWEB形式で行い、回答率はそれぞれ、前期34.4% (履修者が計1,395名に対して回答者は計480名)、後期30.7% (履修者が計6,460名に対して回答者は計1,981名)であった。</p> <p>【研究科】前期は2016年6月8日(水)から28日(火)に前期開講の17科目、後期は2016年11月7日(月)から26日(土)に後期開講の25科目を対象とした。回答はWEB形式で行い、回答率はそれぞれ、前期50.5% (履修者が計309名に対して回答者は計156名)、後期61.6% (履修者が計216名に対して回答者は計133名)であった。</p> <p>アンケート結果は、前期はアンケート実施の約1週間後に、後期はアンケート実施の約3週間後に、担当教員にフィードバックし、教員の授業改善に努めている。また、アンケート結果を授業内で学生にフィードバックすることを通じて、学生の学習意欲の向上にも努めている。</p>
	研究会・講演会・セミナー等	<p>6月のFD・SDセミナー並びに11月のFDセミナーへの参加を呼びかけた。11月のFDセミナーでは学内事例発表を本学系教員が担当した。</p> <p>また、FD活動の一環として、2016年12月13日(火)に、早稲田大学での「ファカルティカフェ」に参加し、「人間科学部授業における反転授業の実践事例」を聴講し、議論に参加した。</p>
	委員会・会議等	<p>部局内で委員会・会議などは特に開催されなかった。</p>
	その他	<p>体系的な学習の促進を目指して学生に複数の「学習モデル」を提示し、学生が自らの興味に合わせて長期的な履修計画をたてやすくするような取り組みを行っている。</p>
今後の予定・展望	<p>引き続き、授業アンケート、学習モデルの提示を通じて、学生に対して自発的・能動的な学習を促す努力を継続する予定である。授業アンケートの実施時期について、今年度は研究科の方で例年よりも実施時期を早め、アンケート結果のフィードバックを授業期間中に実施できるようにした。来年度も引き続きそのようにしていきたい。</p>	

⑤都市教養学部 理工学系／理工学研究科

活動状況	学生による 授業アンケート等	<p>【学部アンケート】 (1) 理工学系6コースのすべての専門教育科目に対して、前期（7月）と後期（1～2月）に、「授業改善のためのアンケート（学生用）」調査を実施した。質問項目については、経年変化を追跡できるように例年どおりとした。自由記述式の設問は全学アンケートに準じている。また、授業担当者が設問できる問いを積極的に利用してもらうよう、前期・後期とも「質問例集」を作成し、授業担当者に配布した。 (2) 昨年度後期分の学生アンケートの集計結果を6月に、今年度前期分の学生アンケートの集計結果を11月に、それぞれ各教員へ返却した。学生の自由記述については、原文のまま各授業担当者に返却した。その際、差別用語を含むなど不適切な回答内容については、これまではそのすべてを削除していたが、今年度より回答の意図を損なわない程度に不適切箇所のみ削除して授業担当者に開示することとした。アンケート結果のうち、数値化されている回答に関しては、理工FD委員会において今後の課題や授業改善の到達状況について議論した。 (3) 授業担当者に対しては、「理工学系専門教育科目に関する授業改善アンケート」を、秋に実施し、それらの回答を集計して、教室環境改善などの整備を行った。</p> <p>【大学院アンケート】 理工学研究科を構成する6専攻において、専攻ごとの特色も勘案しながら、専攻が個別に大学院生に対するアンケート調査などを行い、毎月開催される理工学系・理工学研究科FD委員会でその結果について議論した。大学院生の場合、授業を受講する時間より、研究室で研究活動に費やす時間が圧倒的に多いことを考慮して、大学院講義に対する評価に加え、研究に対する満足度、研究環境、研究・勉学へのサポート体制に対する要望収集も質問項目に含められている。FD委員会のみでは改善が困難な場合は、適宜、教務委員（大学院担当）、専攻長などとも相談し、改善を図っている。</p>
	研究会・講演会・ セミナー等	<p>大学院生向けのFD活動「STA・TA研修」では、理工学研究科からも大学院生が参加し、学部生を対象にした実習・演習・講義補助などに積極的に参画・貢献する為の考え方、方法を実践するトレーニングを実施した。</p>
	委員会・会議等	<p>毎月（8月と2月を除く）、理工学系・理工学研究科FD委員会を開催し、各コース・専攻におけるFD活動の報告と意見交換を行うとともに、授業アンケートの方法、成績評価基準、セミナー実施、授業改善と研究環境改善に関する施策など、理工学系・理工学研究科FD委員会として検討すべき事項について議論を行った。 理工学系・理工学研究科FD委員会を以下の日程で開催した。 第1回 4月20日 H28年度の理工FD活動、理工授業アンケート等について 第2回 5月（メール審議） 理工授業アンケート等について 第3回 6月（メール審議） FD・SDセミナー開催、理工授業アンケート等について 第4回 7月20日 理工授業アンケート、H27年度の成績分布等について 第5回 9月21日 理工授業アンケート、学生配布用リーフレット、冊子「授業のコツ・ポイント」等について 第6回 10月17日 教室設備、STA・TA研修、冊子「授業のコツ・ポイント」等について 第7回 11月（メール審議） FDセミナー等について 第8回 12月15日 英語様式による授業改善アンケート、冊子「授業のコツ・ポイント」、大学院FD等について 第9回 1月19日 大学院FD、冊子「授業のコツ・ポイント」等について 第10回 3月 未定</p>
	その他	<p>特になし。</p>
今後の予定・展望	<p>学部については、学生による授業改善のためのアンケートを今後も実施し、今後の更なる改善点を検討する。 大学院の授業改善については、それぞれの専門課程における授業の特殊性も考慮して、専攻ごとに改善に取り組んでいく。今後も引き続き学部・研究科合同のFD部会を定期的で開催し、全学FD委員会との連携、FDの共通認識の形成、具体的取り組みの実施検討を行う。</p>	

⑥都市環境学部／都市環境科学研究科

活動状況	<p>学生による授業アンケート等</p>	<p>非常勤講師担当科目、実験・演習などの科目、受講者数が10名程度以下の科目これらを除く今年度開講科目について、前期、平成28年7月4日(月)～7月15日(金)の期間にアンケートを行った。アンケートの実施・回収状況は、以下のとおりである。学部授業に関して、対象科目数 54、返却科目数 51(回収率94.4%)、履修登録者2565、回答者数 1833(回答率71.5%)だった。教員アンケートは、対象教員数(延べ人数) 72、返却教員数 61(回収率84.7%)だった。大学院授業に関して、対象科目数22、返却科目数 19(回収率86.4%)、履修登録者 565、回答者数 373(回答率66.0%)だった。教員アンケートは、対象教員数(延べ人数) 37、返却教員数 28(回収率75.7%)だった。 後期については、平成29年1月11日(火)～1月30日(月)の期間にアンケートを行った。結果の集計は、この報告書の提出時に出していない。</p>
	<p>研究会・講演会・セミナー等</p>	<p>全学で実施するFDセミナーや講演会に参加し、授業改善に向けた理解を深めた。研究科単位での研究会は開催されなかったので次年度以降の課題としたい。</p>
	<p>委員会・会議等</p>	<p>都市環境学部・都市環境科学研究科FD委員会を合計2回開催した。開催日時及び内容は以下のとおりである。 第1回：平成28年5月30日、平成27年度後期におけるFDアンケート集計結果報告について、平成28年度前期FDアンケートの実施について、全学FDセミナー。 第2回：平成28年11月24日、平成28年度前期におけるFDアンケート集計結果報告について、平成28年度後期FDアンケートの実施について、次年度以降の取り組みについて。</p>
	<p>その他</p>	<p>アンケートの教員へのフィードバックに関しては以下のとおり。 1 個々の科目データについては、自由記述のフィルタリング後、担当教員へ配信。 2 今回のデータ並びに自由記述については、都市環境FD委員会にて共有。</p>
<p>今後の予定・展望</p>	<p>学生による授業評価・教員による授業評価結果を次年度の授業に活用することによって、改善に取り組んでいく。アクティブラーニングについても積極的に取り組む。</p>	

⑦システムデザイン学部／システムデザイン研究科

活動状況	学生による授業アンケート等	システムデザイン学部では、前期開講科目について、学生による授業改善アンケートを2016年7月1日から8月5日に実施した。学部では、対象授業科目数83のうち65科目からの回答があり、大学院では、対象授業科目数45のうち35科目からの回答があった。また、後期開講科目については2017年1月6日から2月6日に実施した。また、本年度より、担当者の希望により、演習、実験科目、集中講義科目に対するアンケートも実施することとした。
	研究会・講演会・セミナー等	T A初任者研修（日野会場）が4月22日（金）に開催され、システムデザイン研究科より34名の学生が参加して行われた。また、S T A・T A研修（日野会場）が11月18日（金）に開催され、4名の学生（学部学生2名を含む）の参加によりグループワークが行われた。また、日野会場で参加ができない学生に対し、南沢会場での受講を薦めるなど積極的に参加を働きかけた。6月30日（木）開催の首都大学東京F D・S Dセミナー「教職協働によるI Rの推進」及び、11月2日（水）開催の首都大学東京F Dセミナー「能動的学習を促進する授業デザイン」について、テレビ会議システムを用いて日野キャンパス会場への中継を行った。また、全学F D委員会主催のセミナー等について、教授会での案内の他、e-mail及びシステムデザイン学部F D委員を通して、参加を強く働きかけた。
	委員会・会議等	システムデザイン学部F D部会を、4月18日、6月9日、12月6日に開催し、適宜、メール審議を実施することにより、授業改善アンケートの実施方法の検討及びアンケート結果の考察などを効率良く行った。なお、システムデザイン学部では、大学院教務委員会とシステムデザイン学部F D部会は兼任のため、大学院教務委員会実施時にも、全学F D委員会の報告などをあわせて行っている。
	その他	学生による授業改善アンケートの結果を科目ごとにまとめ、各授業担当教員にフィードバックを行うとともに、システムデザイン学部・研究科F Dニュースとして配布、周知を行い、授業改善に努めた。
今後の予定・展望	今後も引き続き、学部・研究科合同のF D部会を定期的で開催し、全学F D委員会との連携、F Dの共通認識の形成、具体的取組の実施検討を行う。システムデザイン学部実施の授業評価アンケートについて、アンケートの質問項目の削減を含めた再検討や個々の教員の授業改善へつなげていくための方策などを検討したい。来年度への申し送り事項として、日野会場でのT A初任者研修などの実施時間帯を授業の無い夕方時間帯にて開催することとした。	

⑧健康福祉学部／人間健康科学研究科		
活動状況	学生による授業アンケート等	健康福祉学部で前期・後期に開講された科目について学生による授業改善アンケートを実施した。前期・後期ともに回答結果に基づく学年別及び講義・演習・実習別の計7種類の集計を別途行い、授業担当教員にフィードバックした。
	研究会・講演会・セミナー等	FD委員会が行うFDセミナーを広く周知し参加を促している。今年度は、九州大学基幹教育院人文社会科学部門 教授 川島啓二氏に、大学の組織運営改革と教職員の在り方についてお話しいただく予定である。
	委員会・会議等	健康福祉学部・人間健康科学研究科FD委員会部会を計4回開催する予定である。
	その他	
今後の予定・展望		全教員におけるFDに関する共通認識の形成及びボトムアップ型の改善への取り組みを中心にFD活動を進めていきたい。また、個々の教員レベルにおける授業改善の取り組みの情報を共有する仕組みの実現についての検討を継続していきたい。